



JAL不当解雇撤回ニュース

No 105号 2011.12.28
発行: JAL 解雇撤回国民共闘事務局
連絡先: 航空労組連絡会事務局
〒144-0043 大田区羽田 5-11-4
フェニックスビル内
TEL: 03-3742-3251 FAX: 03-5737-7819
<http://www.jalkaikotekkai.com>

取るぞ勝利判決! JAL 本社前で宣伝 大西社長に提出した署名は総計 21 万筆

整理解雇されてから 1 年、12 月 26 日の本社前行動には 100 名の方が参加しました。連帯の挨拶の後、原告 2 名がマイクを手に、解雇されてから 1 年の思いや職場の状況などを訴えました。また、解雇撤回を求める大西社長宛ての署名 8,000 筆を提出しました。これで会社に提出された署名は 21 万筆となります。以下、連帯の挨拶と原告 2 名の訴えを紹介します

油断せず裁判所への取り組みを強めよう

昭和シェル労組書記長 倉木さん

昭和シェル労組は 40 年間の労使紛争を和解解決しました。しかし、JAL の皆さんの闘いは 40 年などと悠長なことは言ってられません。必ず、早期に空に戻さねばなりません。

裁判長が、結審直前に会社が出してきた意見書を証拠採用しなかったというニュースを見ました。我々に有利な訴訟になっていると思いました。しかし裁判が有利に進んでいても、裁判は油断がなりません。裁判所に対する取り組みが大切です。そして、解雇の撤回を実現するために、JAL に対する抗議行動も、一緒に頑張りたいと思います。定年退職をしたのでこれからは皆さんが乗っている飛行機に乗って旅行がしたいと思っています。



原告を職場に戻し、健全な日航に

新聞労連 ブルームバーグ支部 書記長 松井さん



アメリカ系の経済通信社のブルームバーグ社から、能力不足の汚名を着せられて解雇され、今裁判をやっています。会社は私の能力不足を説明しようと躍起になっていますが、一方で和解もしたがついています。和解についての協議の際、JAL の皆さんの応援を背に、和解は受け入れられないと自分の主張を強く宣言することができました。

21 日の裁判で裁判長は「事業計画書というきちんとした書面はあるか」と聞きましたが、会社は「ない」と答えました。ないと嘘をついているのか、本当にないのか分かりませんが、そんなずさんな会社はありません。裁判官はずさんな経営管理しかできないなら、潰れるはずだと思ったに違いありません。それが倒産につながったとすれば、解雇は無効だと思ったに違いありません。

来年株式上場が予定されていますが、争議という懸案をかたづけ、経営を軌道に乗せてから晴れて上場すべきだと思います。皆さんを職場に戻し、健全な航空会社として立ち直れるよう願っています。

お客様を大事し安全第一を貫く日航の再建を

航空連 事務局長 津恵さん

たった今 JAL に不当解雇撤回要請署名を提出してきました。今日までに提出した署名は 21 万筆。署名を下さった圧倒的多数の方は、日本航空のお客様です。「21 万人ものお客様の声をどのように受け止めているのか。会長・社長のコメントを頂きたい」と何度も申し入れましたが、一度もコメントを頂いていません。お客様の声に耳を傾けないでまともな経営はできません。これは安全軽視の姿勢と相通ずるものがあります。不当解雇を撤回し、私たちの手で安全・安心の JAL を築こうではありませんか。



~~~原告2名の訴えを紹介します~~~

来年の判決を待たずして、解雇撤回の英断を下して下さい

客乗原告 竹本さん



JALに入社してちょうど30年目で整理解雇されました。破綻後多くの仲間が希望退職で辞めていきましたが、私はJALを再生する一員として残ることを決めました。その頃私は、新人を指導育成する部署に配属されていました。先輩上司から「あなたの経験とすばらしい接客術を後輩たちに伝えて下さい」というありがたい言葉を頂き、私も長年勤めたJALに恩返しができるチャンスと思い、多くの先輩方から教えて頂いたことを後輩に伝えて行こうと精一杯頑張りました。見えない不安の中、「大丈夫、JALは必ず再生する。一緒に頑張ろう。」解雇予告通知を受け取るまで、その思いは変わりませんでした。しかし、「貴女の経験を伝承して下さい」と言った上司の言葉とは裏腹に、年齢を理由に解雇されました。

それでも物心両面の幸せを約束して下さった稲盛会長を、心のどこかで信じていました。新年を迎える前日に解雇するなど非情なことをするはずはないと。

法廷で初めて拝見した稲盛さんの証言は責任逃れのオンパレードでした。稲盛さん！あなたは何をしにJALに来たのですか？。「迷ったら安全を取れ」「客室乗務員の仕事はお客様を安全に目的地に運ぶこと」そういう信念を持ってフライトしてきました。今職場では、物を言う人がいなくなり、将来に展望を失った人たちがどんどん辞めて行っています。

いくら利益を上げても一回事故を起こしてしまったら終わりなんです。JALを利用して下さるお客様に、安全なJALと言えますか？今年の大みそかに稲盛会長のサプライズとして、来年の判決を待たずして、整理解雇は撤回しますという記者会見があるのではないかと期待しています。

社員を大切にしない会社で成功した例はありません

乗員原告 原さん

今日は現在の会社がどうなっているかを述べます。会社がいかに地に落ちた教育をやっているかという事です。今年2回客室乗務員に配布された機内サービス用の「言葉がけ集」というのがあります。巷では通称「キャバ嬢マニュアル」と言われています。一端を紹介しましょう。「お名残惜しゅうございますねえ。このまま一緒に帰りませんか。」「偶然も3回目なら赤い糸と言うそうです」「この後は魅惑のデザートタイムでございます。(この時怪しげな表情でニンマリ笑う)」等、実際こういうことを現場の人間に言わせている。お客様が勘違いしたら大変なことになります。こんなことで世界一のサービスを目指すとは笑止千万です。



二点目は安全についてです。最近、客室乗務員が立ったまま着陸するという事例がありました。これに対して、会社は有意注意のみで、個人の意識が足りなかったということで組織的な指導は何もしていません。現場からも「成果主義の行き過ぎで、ミスを隠しかねない空気が生まれてきているのが心配です。」という声が聞こえています。

今社員の大量流失が続いています。我々が解雇されて以降、客室乗務員が約280人、パイロットが訓練生も含めて50人以上、整備並びに企画業務職の人が約100人が自主退職で辞めて行っています。理由として「職場の雰囲気になじめない」「疲労困憊で希望がない」「将来の展望が全く見えない」等です。社員を大切にしない会社で成功した例はありません。社員はロボットではありません。血の通った人間なのです。

特にパイロットは技術者です。会社の財産です。何億円もかけて作り上げてきた技術者をいとも簡単に他社や海外に流出させていいのでしょうか？「八百屋の経営もできない」とJALの経営陣を罵倒した稲盛会長になぜこんな財産を捨てるような馬鹿げたことができるのでしょうか。

最後になりますが、現在のJALではすべての事が「JALフィロソフィー」を中心に行われています。それならばなぜ「JALで働いていてよかった」「全社員の物心両面の幸福を追求する」が実践されていないのでしょうか？稲盛会長、本社前での行動が最後になるよう、自主的に解雇撤回を下して下さい。